

《自治体訪問特集 2：高校編》

◆南幌町を訪問（7月17日）

高教組本多執行委員と小林事務職員部長（南幌高校）で南幌町を訪問し、小笠原正和教育長と懇談しました。

教育長から「南幌高校は確かに小規模の学校ではあるが、近隣の不登校の生徒を受け入れ、卒業させ進路実現させている。南幌高校に進学する生徒には様々な支援をしている。短期留学の支援や交通費補助、南幌高校卒業生で進学する生徒には、他地域から登校している生徒であっても一律支援している。小規模校の魅力も十分にある。機械的な間口減は納得がいかない。道教委が4～7間口を望ましい学校規模とするのにもは納得がいかない」と語ってくれました。

小林さんから、「私も南幌高校の卒業生ですが、南幌高校がなくなるのは寂しいです。学校で働いていると生徒が3年間で変わっていくのが分かります。是非南幌高校を存続させてほしい」と要請しました。



◆大空町を訪問（8月9日）

高教組本多執行委員、山下さん（網走桂陽高校）が大空町を訪問し、佐藤生涯学習課長、村山主幹と懇談しました。

生涯学習課長からは「大空町立の新設校設立に至った経緯。町村合併の中で、両校の統合が町民のしこりを残さないようにということは町長から言われている。東藻琴高校は中間定時制の農業科として地域の産業に密着してきた。女満別高校は1間口になり、東藻琴高校も入学定員を下回る中で、発展的な統廃合は避けられなかった。」と統合の経緯を語って暮れました。

「寮などを活用し、全国から募集をかけるが、基本は地域の子どもたちの高校をつくりたい。教育課程はこれから検討だが、今のところ「総合学科」で2系列を検討。斜里高校の例などを参考に慎重に検討している。東藻琴高校の農業教育など特色を生かし、住民の意見が十分反映できる学校にしたい」と語りました。コミュニティスクール導入を検討しているのかという質問には、「地域の方が学校づくりに参加できる仕組みを検討している」とこたえました。財政の状況が厳しい中、地域の学校を残し、新たな町立高校の設立に向けた意欲感じ、実りある情報交換となりました。

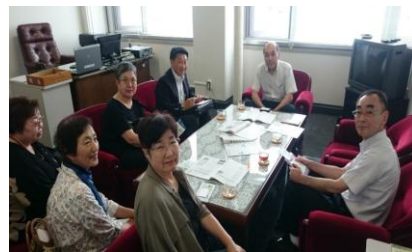
最後に、住民参加の学校をつくるときに、地元の高校生の意見を反映してほしいと要望しました。



◆深川市を訪問（8月9日）

高教組関原書記長、玉井さん（深川西高校）、木村さん（深川東高校）、新婦人（北名さん他3名）が深川市を訪問し、早川雅典教育長と懇談しました。

教育長は「深西の募集について、今年度2間口分の生徒しか来なかったが、9月の配置計画の際には4間口に戻すよう、道教委の佐藤教育長には要請に行った。深西、深東の生徒をどう増やすか、地元の中学生やその保護者へのPR活動を重点的に行っている。今年度初めてPTAが中心となり、公民館で両校の説明会を開催し、80名の保護者が参加した。昨年度より、市の広報誌に、定期的に両校の特集記事を掲載している。市内の小、中、高の連携を深めるため、校長同士が定期的に懇

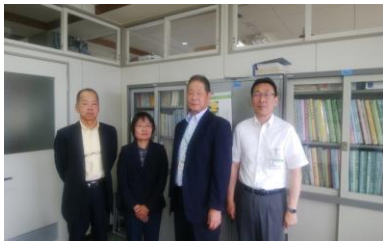


談を行っている。資格取得費の補助など、年間 960 万の予算を組んでいるが、市長とも話をして予算を増やしていくことで検討している。資格取得費などの補助は多くの自治体を実施しているが、生徒の奪い合いに過ぎない。道教委は、生徒が減ったから間口を減らすのではなく、北海道の広域性に留意し、長いスパンの見通しの中、それぞれの地域ごとに将来設計を示すべき。両校の存続に向け、できることはすべてやっていきたい」と語っていました。

◆名寄市を訪問（8月23日）

高教組本多執行委員、近田さん（名寄高校）、渡部さん（名寄産業高校）が名寄市を訪問し、荒井昭典教育課長、河合信士教育部長が対応してくれました。

名寄高校・名寄産業高校の統合の要望を道教委にあげた経緯については、「H32 年度に名寄産業で1間口減となる。更に名寄市内で間口の調整が必要との案も出ており、将来的に統合は避けて通れないと判断した。



名寄市内は今後も少子化がどんどん進んでいく状況で統合はやむを得ない。市としては先手を打って統合の要望をあげることにした」と説明しました。

新しい高校のビジョンを聞いたところ、「道立学校なので道教委が考えること。」と回答。最後の名寄産業高校の渡部さんから、「名寄産業高校の寄宿舎は、すべて先生方によって賄われている。寮の勤務の後でも、普段と変わらず授業をしている。寮母なども配置されない状況を何とかしてほしい」と要望したのに対して、「今までそのような実態があったことは知らなかった、早速道に要望する」とこたえました。

○あり方検討委員会

3月12日にあり方検討委員会を開き協議した。検討委員は建設業の組合、商工会議所、農協、同窓会、各校の校長はオブザーバー参加。

→（近田さん）校長は新聞報道で両校の統合案のことを知ったといっているが、なぜ校長がこのことを知らなかったのか。

あり方検討委員会では議論にはなったが、ここで統合案を決定したわけではない。後日市長・教育長・検討委員の代表で決定した。

○名寄産業高校の現状（渡部さんから）

現在校舎が二つに分かれていることで、移動のある生徒は昼休みも放課後もない状態がずっと続いている。また、寄宿舎は教育寮という扱いもあって、すべて先生方だけで運営している。宿直明けの連続勤務など大変な状況もある。